

企画展

彫る漆

Museum Collection Exhibition

Lacquerware with Carvings



上: 椿堆朱合子（部分）中国・明時代 永楽年間（1403～24）下: 重要文化財 楼閣人物填漆箪笥（部分）中国・明時代 15世紀 いずれも根津美術館蔵

漆工技法は多彩です。近年、当館では館蔵品を中心として、2018年の「はじめての古美術鑑賞 ー漆の装飾と技法ー」においてその全体像を見渡すことからはじまり、2021年に「きらきらでん」（螺鈿）、つづいて2022年に「かたちのチカラ」（鬆漆）および「蔵出し蒔絵コレクション」（蒔絵）と、各技法を取り上げて、その歴史・作品を紹介する展覧会を開催してきました。

第5弾となる今回は「彫る」ことで表現する漆工を特集します。彫漆、彫木彩漆（鎌倉彫）、鎗金、沈金、填漆、蒟醤と呼ばれる技法が該当し、漆文化圏である東～東南アジア各地で生み出されました。ところが、これらがまとめて展観されることは意外と少ないこともあり、作品を見たり、それぞれの特色を知る機会もあまりなく、そもそも「彫る」技術であることが理解されていないものもあります。しかし日本では、それらの多くを唐物漆器として珍重してきたことから、世界的にも貴重なコレクションが形成されています。その魅力的な存在をぜひ知っていただきたい。それらを体系的に展示・解説する本展覧会が、バリエーション豊かな「彫る漆」の世界に関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

2026年 12月5日(土)～2027年 1月17日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM https://www.nezu-muse.or.jp

根津美術館 NEZUMUSEUM

彫る！

彫漆（ちょうしつ）



椿堆朱合子（つばきついしゅごうす）
1 合　木胎漆塗
中国・明時代　永楽年間（1403 ～ 24）
根津美術館蔵

漆を塗り重ねた厚い層を彫って文様をあらわす中国の代表的な漆工技法を、現在日本では彫漆と総称している。堆朱はその一種。高価な漆をたっぷりと用いながら削りとってしまう大変贅沢な装飾である。精緻で立体感溢れる表現は圧巻。

（部分）



【彫漆】
一度に塗れる漆の厚みは約 30 ～ 60 ミクロンとされていますから、わずか 1 ミリの層に 20 ～ 30 回の塗り重ねがあることになります。深く彫り込まれた層から、どれだけの労力が費やされているかは推して知るべし。彫る素材にもご注目ください。

彫木彩漆（鎌倉彫）（ちょうもくさいしつ　かまくらぼり）



木地を彫ってから漆塗りをほどこす彫木彩漆は、彫漆のシャープさに比べて、大胆な彫り跡が特徴。その素朴な味わいも魅力である。

牡丹彫木彩漆香合（ぼたんちょうもくさいしつこうごう）
1 合　木胎漆塗
日本・室町時代　15 ～ 16 世紀　根津美術館蔵

鎗金（そうきん）



鎗金は、刀（とう）で文様を線刻した溝に漆や膠（にかわ）を擦り込み、金箔を押し込んで金線をあらわす技法。抑制された華やぎで、宋時代から明時代にかけて盛行した。

龍鎗金硯箱（りゅうそうきんすずりばこ）
1 合　木胎漆塗
中国・明時代　14 ～ 15 世紀
根津美術館蔵　永田牧子氏寄贈

沈金（ちんきん）



葡萄栗鼠粟鶉沈金太鼓樽（ぶどうりすあわうずらちんきんたいこたる）
1 口　木胎漆塗
日本・桃山時代　16 世紀
サントリー美術館蔵

鎌倉時代以降、鎗金が日本に数多くもたらされると国内でも製作がはじまり、同技法を沈金と呼ぶようになった。蒔絵とは異なる、清麗な趣をたたえている。

（部分）



【鎗金・沈金】
漆で文様を描いた部分に金粉を蒔く蒔絵は、凸の線が鮮やかに光ります。一方、彫った凹みに金箔が入ることによって奥ゆかしい輝きを放つのが鎗金・沈金の魅力。彫り方の違いで、様々な表情が出ます。

彫る？

填漆（てんしつ）

収蔵後初公開



填漆とは、文様を彫った部分に地の色とは異なる色漆を埋めた後、全体を平らに研ぎ出して仕上げる中国の技法。一見、描いているように見えるが、これも彫る表現である。本作は希少な明時代前期の作例。

重要文化財　楼閣人物填漆筆筒（ろうかくじんぶつてんしつたんす）
1基　木胎漆塗
中国・明時代　15世紀
根津美術館蔵

蒟醤（きんま）



タイ、ミャンマーの代表的加飾技法である蒟醤は填漆の一種。我が国では異国情緒あふれる形や文様が好まれ、茶道具に見立てられて愛用された。

鳥獣唐草蒟醤十角蓋物（ちょうじゅうからくさきんまじっかくふたもの）
1合　籃胎漆塗
東南アジア　16～17世紀
根津美術館蔵


（部分）

関連催事

講演会
（事前申込制）

「つくり手が語る、彫る漆の技（わざ）と見どころ」
講師：松本達弥氏（東京藝術大学非常勤講師）
日時：2026年12月19日（土）　午後2時～3時30分
会場：根津美術館　講堂
定員：100名

スライドレクチャー
（事前申込制）

企画展「彫る漆」の担当学芸員がスライドを使って展示解説を行います。
日時：2026年12月18日（金）、2027年1月8日（金）
　　いずれも午前11時30分～午後12時15分
会場：根津美術館　講堂
定員：各回100名
　　＊2回とも同内容です。

＊いずれも11月24日（火）午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
＊参加は無料ですが、美術館入館料が必要です。

同時開催展

展示室5　根津美術館の古典籍
―百万塔陀羅尼から南総里見八犬伝まで―

所蔵する古典籍のうち、印刷された書物にスポットをあてて紹介します。奈良時代の経典から近世の小説まで、さまざまな版本をご覧ください。



山谷詩集注（さんこくししゅうちゅう）
11冊　紙本墨刷
日本・南北朝時代　14世紀
根津美術館蔵

禅宗寺院を中心に出版された「五山版」で、中国・宋時代の文人、黄庭堅（山谷）の詩集に注を施した版本。現存する諸本のなかでも、最も刷が良い初印本のひとつと言われる。

展示室6　冬の茶会 ―ゆく年くる年―

一年を締めくくる年の瀬から、新たな年を迎える正月へ。冬の風情と年の節目の趣を映した季節の茶道具約25件を取り合わせます。



赤樂茶碗　銘　冬野（あからくちゃわん　めい　ふゆの）
京都　伝樂道入（らくどうにゅう）作
1口
日本・江戸時代　17世紀
根津美術館蔵

樂家三代の道入による赤樂の茶碗。腰の高い筒形は、初代・長次郎の形。一方、黄土を塗ることで赤く発色させる赤樂は道入の創意である。

開催概要

展覧会名　企画展　彫る漆

日時指定予約制　スムーズなご入館と快適なご鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。（招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。）

主　　催　根津美術館

開催期間　2026年12月5日（土）～2027年1月17日（日）

開館時間　午前10時～午後5時（最終入館　午後4時30分）

休 館 日　毎週月曜日。ただし1月11日（月・祝）は開館し、1月12日（火）休館
12月26日（土）～1月4日（月）は年末年始休館

入 館 料　オンライン日時指定予約　一般　1400円（1200円）　学生　600円（400円）
当日券（当館受付で販売）一般　1600円（1400円）　学生　800円（600円）

- （ ）内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。高校生以下は無料（学生証の提示が必要です）。
- ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券は購入まで少々お待ちいただくことがあります。
  また混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。
- 2026年11月24日（火）午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。
- ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス　地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口（階段）より徒歩8分、
B4出口（階段とエスカレータ）より徒歩10分、B3出口（エレベータまたはエスカレータ）より徒歩10分

住　　所　〒107-0062　東京都港区南青山6-5-1

お問い合わせ　Tel. 03-3400-2536（代表）
website　https://www.nezu-muse.or.jp

広報・取材のお問合せ　学芸部 広報課　所／村岡
Tel. 03-3400-2538（直通）　e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へどうぞお知らせください。（press@nezu-muse.or.jp）

次回展

企画展　みほとけ三昧 ー根津美術館の仏像コレクションー

2027年1月30日［土］～3月28日［日］

根津美術館の仏像コレクションは、日本の私立美術館屈指の質と量を誇っています。この度は、それらの中から優品を精選し、コレクションの全貌を紹介いたします。





左：菩薩立像（部分）
日本・平安時代　12世紀
根津美術館蔵
右：不動明王立像
日本・鎌倉時代　13世紀
根津美術館蔵

＊本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2026.10)